

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業は、多面的な性質を持つ地域の課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成を行う。幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等の養成を目標としている。

具体的には、チュートリアル教育（第Ⅰ類科目）において、学生の教育・学修支援を教員だけでなく、チューターと共にチームで実施し、学生は人間、社会、自然をテーマとした探究科目を学ぶ中で、生涯学び続けるための「学び方」を修得する。そして、データサイエンス教育（第Ⅰ類科目）において、的確な事実認識に必要となるデータを取り扱うスキルを学生が身に付ける。さらに、リーダーシップ科目において、課題と向き合う上で必要なリーダーシップについてを考え、ワークを交えながら経験的に学ぶ中で、学生自身がリーダーシップ観を再構成する。

学融合（クロスディシプリン）教育（第Ⅱ類科目）については、多様な視点からのアプローチを可能にする学融合ゼミナールを全学必修で2・3年次に実施する。そして、アントレプレナーシップ教育（第Ⅲ類科目）については、学生が実践の場で主体的に課題の解決に取り組み、幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、新しいものに挑戦する力、異なる分野のネットワークを繋ぐためのコミュニケーション能力を身につける教育活動を展開する。これらにより、Society5.0社会で活躍する人材になることを目指している。

チュートリアル教育、データサイエンス、リーダーシップ、学融合、アントレプレナーシップ育成教育プログラムについては、単独のプログラムではなく、全てがつながった地域戦略人材の育成を目指している。本学におけるアントレプレナーシップとは、課題に対して積極果敢にチャレンジする人、あるいは新しい価値を創造する人という意味で用いている。学生は第Ⅰ類科目において社会で生きるために必要な汎用的なスキルをある程度身に付け、第Ⅱ類科目では高度な専門性を身につけることを目指す中で、異なる視点や課題解決のための思考を学ぶことができる。そのような学生が第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育を受講し、その段階で身につけている知識や技能を実践する。

そして、アントレプレナーシップ育成教育で学生が身に付ける能力・資質については、次の能力・資質の育成を目指している。①汎用的知識：Society5.0の社会で活動するにあたって必要となる基礎知識、②データドリブン：常に明確な根拠に基づき、自ら意思決定を行い、判断・アクションできる力、③人的ネットワーク構築力：対人力を発展させ、様々な領域での良質な人間関係を構築する力、④力強いリーダーシップとマネジメント能力：多様性を理解しながら合意形成し、前進できる力、⑤未来をイメージできる力：成し遂げたい目標を定めて具体化し、行動計画を立て実行する力、⑥創造性とイノベーション：既存の枠組みにとらわれず、新しい価値を創り出す力、⑦社会の課題解決力：解決したい社会課題を自ら解決する力、もしくは解決しようとする力、⑧探究心と意思決定能力：ものごとの本質を見抜き、判断や意思決定することができる力、⑨ポジティブシンキングとチャレンジ精神：どんな場面においてもリスクを恐れず果敢に挑む力、⑩機会の追求：限られた資源を最大限に活かし、機会（チャンス）を追求して挑戦する力、⑪コミットメント：どんな困難があっても、目標達成に向けて最後まで諦めずにやり遂げる力。

これらの能力・資質を身につけられるように、令和5年度より、第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育におけるスキル科目・実践科目と人材育成像に基づく3つのコースを開始した。このことにより、学生は自己実現や社会・他者への貢献、長期的なビジョンを持つことが期待できる。

また、学融合（クロスディシプリン）教育については、学科と学科をクロスさせて、2年次には地域課題に関するテーマ、3年次には現代社会に関するテーマを学生が学ぶ取組を推進した。学生は別の学科の専門領域に触れることができ、複眼的な視野を獲得することができる。

FD・SDについては、全学FDの推進だけではなく、クラスチューター・SAに対しても研修を実施することにより、より効果的な教育活動・学修支援活動を推進することができた。